

第1回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時 2014年10月20日(月) 17:00~20:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

1. 燃料デブリ取り出し分野の「戦略プラン(仮称)」の検討の方向

NDFより、「戦略プラン(仮称)」検討の方向性、及び構成について説明を行った。

2. 燃料デブリ取り出し検討に係るプラント関連情報

東京電力より、燃料デブリ取り出しに係るプラント関連情報として、設計データ、燃焼データ、事故時/事故後プラントパラメータ、事故進展解析結果、事故後調査結果と、それらに基づく各号機の燃料デブリの現時点での状況推定について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- プラントのヒートバランス検討において、崩壊熱と除熱量の違いの要因について、あたり計算により検討すること。
- セシウムの回収量と残存分布の評価において、建屋内の放射線量を把握する上で重要な情報であるため、内訳を細かく示すこと。

3. 燃料デブリ取り出し関連の研究開発の成果と計画

IRIDより、燃料デブリ状況等の把握に関する研究成果と計画として、事故進展解析による炉内状況把握状況と計画、燃料デブリ検知技術による調査、PCV内部調査の実施状況、RPV内部調査等について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 事故進展解析については今後、東京電力からプラント情報をフィードバックし、評価をまとめていくこと。
- 内部の燃料デブリ位置の調査について、3号機の計画が示されていないが、1,2号機の調査結果も踏まえて確実に進捗させること。
- 模擬デブリによる特性把握として実施する試験においては、切削性能の確認という目的を考え、少し広い範囲で条件を検討する方が良い。

4. 燃料デブリ取り出し工法オプションの検討

IRIDより、燃料デブリ取り出し工法オプションの検討に関して、水中/気中条件と取り出し方向の組合

せで分類した考え方と、課題抽出の検討対象とする代表の選び方について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 代表として選定した工法の課題抽出を行うことにより、代表以外のどの範囲の工法の課題がカバーできるのかをまとめておくこと。
- デブリ取り出し工法について、どの工法を選択するにしても、閉じ込め性に関する確認は必須である。
- 代表とした以外の水位の工法についても配慮して検討を行うこと。

5. 号機毎の燃料デブリ取り出し工法複数シナリオ検討の考え方

NDF より、号機毎の条件に応じた燃料デブリ取り出しシナリオ検討の考え方(案)について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- シナリオ評価のための評価軸の考え方を整理し、それを含めてやるべき検討をきちんとできるようにすること。
- 燃料デブリ取り出しに係る研究開発について、取り出しを行う機械のメンテナンス性も考慮に入れて考えること。

以 上